

平成29年度 青年海外

派遣事業研修報告①

アルゼンチン Argentine 1月27日~1月31日

アルゼンチンでは、2、3世が多かったのにも関わらず皆、金武町にとっても興味を持っていて沖縄のラジオを聞いたりインターネットやSNSを活用して情報を得ていてすごく熱心な姿に心が撃たれました。南米のパリと言われるアルゼンチンでは、街並みが綺麗で移動中も車から外の景色を見るのが楽しみでした。皆さまにとっても優しくしてもらい短い研修期間を毎日楽しく過ごすことができ、今でも第2の家族のような存在になっています。

島袋 桃緋さん



▲送別会に集まってくれた町人会の皆さんと涙のお別れ



▲アルゼンチンの伝統文化、タンゴを視察

南米のパリと呼ばれるアルゼンチンの街並みはとても美しく歴史を感じる建物と、近代的なビルが混ざっていました。アルゼンチンでも日本の文化が人気なようで、日本庭園の中では日本の文化が紹介されていたり、沢山の人で賑わっていました。またその中でも沖縄の守礼の門をモチーフにしたものもあり驚きました。元々アルゼンチンには町出身者が少なく、今はそれぞれの家族が増えたことで町人会の人数も増え、皆さん家族のようであつホームな新年会が開かれていました。

仲村 明さん



▲新年会での集合写真(うるま園)



南米のパリと呼ばれるアルゼンチンは建物がお洒落!

ボリビア Bolivia 2月1日~2月9日



▲「オキナワ」と呼ばれる、もうひとつの沖縄



▲元派遣研修生一同から町旗をプレゼント

ボリビアにはオキナワと呼ばれる地域があり、そこには日本語が飛び交っています。そして、現地のなかでも日系人がとても活躍していることに驚きました。若者からお年寄り達も日本語とスペイン語、そしてうちなーぐちを交えて話していて、面白いと思う感情と不思議な感覚になりました。この文化はボリビア移民、そしてその子孫達の新しい文化であり大切に継承してほしいと強く思いました。

島袋 桃緋さん



▲CAICO(コロニア沖縄農牧総合共同組合)にあるサイロ(穀物を収める倉庫)を視察



▲山城浩さんの大豆畑にて(第1コロニア)

もうひとつのオキナワと言われる、コロニアオキナワの子供たちはボリビアと日本(沖縄)両方の文化を勉強していて、私たちに日本語で学校の説明をしてくれたり歌のプレゼントをしてくれました。サンタクルスは都会ですが、コロニアオキナワは豊かな自然が残っており、野生のワニを見ることもできました。また、どこの畑も広大で大豆は私たちの身長ほどの高さもあり、土地の豊かさを感じました。

仲村 明さん



▲又エバエスペランサ日本語学校にて(第2コロニア)

移民した方々と交流し絆を深め、移民の歴史を学びたい!!



◀日本庭園の守礼の門(アルゼンチン)

当事業は金武町の青年を海外へ派遣し、各国の異文化体験を通じて国際的な視野を広げ、地域において意欲的に活動する青年の育成を図ること、移住地との交流の懸け橋となれる人材の育成を図ることを目的としています。

平成30年1月17日~2月20日に実施された青年海外派遣事業で海外5カ国(ブラジル・アルゼンチン・ボリビア・ペルー・米
国ロサンゼルス)へ行って来た研修生、島袋桃緋さん・仲村明さんの研修報告をシリーズでお届けします。今月はブラジル・アルゼンチン・ボリビアでの研修について報告します。

ブラジル Brazil 1月18日~1月26日



▲送別会に集まってくれた町人会の皆さん



▲大規模なバナナ農園を経営する伊芸さん達と



▲新年会で元研修生と一緒に舞台上に立ちました

ブラジルの町人会の皆様はとても金武町民としてのアイデンティティをもって、現在金武町民である私たちが知らないことまで知っていて私はとても恥ずかしくなり、そして悔しくもなりました。またブラジルの町人会は規模も大きく、新年会では元研修生達がかぎやで風や、三線を披露し会を盛り上げ町人会に寄与している姿が印象的でした。若者の育成作りにも力を入れているなど感じました。

島袋 桃緋さん

初めて訪れるブラジルは予想以上に都会で、国土が広い分、移動にとても時間がかかることに驚きました。食文化を通して、様々な国から移民を受け入れている事や歴史などを学ぶことができ面白かったです。日本とは違う一面を感じながらも、新年会では子どもからお年寄りまで100を超える方が集り、「チャーガンジュー?」の言葉が聞こえてきたり、元研修生たちによる三線や踊りの披露があったりと、金武町から遠く離れたブラジルでも金武町を感じました。

仲村 明さん



▲日本移民の上陸地であるサントスにて

平成29年度 青年海外

派遣事業研修報告②

先月号に引き続き、平成30年1月17日～2月20日に実施された青年海外派遣事業で海外5カ国 島袋桃緋さん・仲村明さんの研修報告をシリーズでお届けします。今回はペルー・ロサンゼルスで

(ブラジル・アルゼンチン・ボリビア・ペルー・米国ロサンゼルス)へ行って来た研修生、の研修について報告します。

ロサンゼルス Los Angeles 2月15日～2月20日

北米金武クラブは規模も大きく、皆さんとても積極的で愉快な人達です。今年度から若者達に役員が引き継がれ、皆さんとても頼りがいがありました。新年会は、約120人が参加し大盛り上がりでした。また中学生時代の英語のニーナ先生とも再会できました。あの頃の私は英語が苦手、先生にはとてもお世話になりました。新年会では英語でスピーチをさせていただき、少しは成長した姿を見せることができたと思います。

島袋 桃緋さん



▲元研修生の皆さんと

北米金武町人会の新年会には約150人の方が集まっていました。会場には各区の旗が飾られ、会場では英語だけではなく日本語・うちなーぐちが飛び交い、余興の時にはへーしや指笛が聞こえてきました。沖縄で生まれ育った私にとって珍しい経験ではありませんでしたが、アメリカでこんなにも沖縄が残っている事に感動し、心が暖かくなりました。滞在したロサンゼルスは温暖な気候で、植物園では冬にも関わらず様々な花を見る事ができ、桜も見ることが出来ました。

仲村 明さん



▲北米金武クラブ新年会の様子▼



▲中学時代の英語の先生、ニーナ先生と再会

～地球の反対側にあった、もうひとつの金武町～



しまぶくろ ももか
島袋 桃緋

地球の反対側に、金武町の情報を私達より知っていて、知りたいと思ってきている人が沢山いることを知っていますか？この研修では国や言語、文化が全く異なる人と出会うことができ、《金武ちゅ》や《ウチナーンチュ》というだけで繋がり、なぜかそこには他人とは思えないような家族のような温かみがあります。金武町は沖縄県の中でも小さな町ですが、世界中に「もうひとつの金武町」があり、町人会の皆様が《金武ちゅ》というアイデンティティを持っていることを誇らしく思います。私は研修に参加しなければ自分の大切さや環境の大切さに気付くことができなかったでしょう。私はこの研修のおかげで、私が帰る場所を沢山貰いました。なのでこれからは、金武町が世界中の金武ちゅの皆さんの帰る場所となるよう、交流を先導しながらホームである金武町をより盛り上げていきたいです。

ペルー Peru 2月10日～2月14日



▲乾燥地帯のナスカを視察



▲ペルー沖縄まつりではエイサーを披露していました



▲ペルー沖縄まつりで金武町人会の皆さんと

ナスカの地上絵、マチュピチュ、噴水公園など様々な場所が世界遺産として有名なペルーの都市は、街並みも綺麗で沢山の人が賑わっています。ペルーでは、世界若者ウチナーンチュ大会や沖縄まつりに参加させてもらいました。《ウチナーンチュ》というルーツをもとに世界各国から大勢の人が集まります。そこはまるで沖縄です。温かいおじーとおばーや、三線を聴きながらうたた寝してしまいそうなどとも優しく穏やかな空間がそこにもありました。

島袋 桃緋さん

ペルーでは世界若者ウチナーンチュ大会と沖縄祭りに参加することができ、町会の方だけではなく、沖縄も含め世界中のウチナーンチュと関わる事ができました。また、沖縄祭りの市町村ごとの行進では私達もはっぴを着て参加させてもらいました。舞台では伝統文化だけではなく若い人も楽しめるように工夫された独自の沖縄文化がありました。

首都のリマだけではなく、沖縄では見ることのできない乾燥地帯にも連れて行ってもらい、地域によって全く気候が違うことも感じる事が出来ました。

仲村 明さん

～世界中にHOMEができたような旅～

研修中、様々な経験をさせて頂く中で5カ国それぞれ日本とは違う面も多くあり戸惑う事もありましたが、どの国でも共通して、関わってくれる皆さんは元々お互いを知っていたかのような不思議な感覚になるほど歓迎して下さい、世界中にHOMEができたような感覚になりました。

この経験を「いい経験ができてよかった。」で終わらせるのではなく、各国の町人会やその国について、また歩んできた歴史について知った責任がある私が、今回できた繋がりを大切にしながら、もっと学び、それを発信し、より多くの方が世界のウチナーンチュについて知るきっかけづくりをしていきたいと考えています。今回、関わってくれた全ての方にこれからの活動を通して恩返しをしていきたいです。



なか むらめい
仲村 明